

目次

-
- 【1】 --- 教員コラム第 12 弾 第 6 回「医科学を志す若者へのエール」

感覚器未来医療学 / 木下 茂

.....

- 【2】 --- 平成 30 年度第 2 回企画展示 <ほそちいちゃい本>展開催中
-

- 【3】 --- [11/21(水)開催] プレゼンテーション・スキルアップ講座

～一歩進んだプレゼンテーションを学ぶ～

.....

- 【4】 --- [同日開催] ProQuest 講習会 ～ProQuest を使ってみよう～
-

- 【5】 --- Mecke でめつけて！③異なる版次があります
-

[Book Review] ・ ・ ・ 編集後記にかえて

- 【1】 --- 教員コラム第 12 弾 第 6 回「医科学を志す若者へのエール」

感覚器未来医療学 / 木下 茂

.....

人というものは、何事についても、自分の視点で捉え、考え、判断し、相手の立場や相手の視点で物事を捉えることは得意ではない。また、感性と理性、創造と伝統、アナログとデジタル、いずれをも共存させながら物事に対処できる人はそう多くはない。しかし、それらを持ち合わせようと努力し、単一性ではなく多様性を認めようとする心の広さと温かさを求め続けることは大切である。読書は、このような視点で捉えても大きな意味を持つ。歴史、風土、文化の異なる地で育った人間がさまざまなことをどのように捉え、考え、判断するのかを知り得る、少なくとも想像できる機会となり得る。読むことと書くことについて、私のバイアスの入った見方がある。一般に、英国人、米国人の教養のある若者は良く読み、良く書き、そして書く文章を非常に大切にする。しかし、日本の理系といわれる若者の多くはそうではない。おそらく大学時代をどのように過ごしたかと関係するのかもしれないし、リベラル・アーツへの造詣の深さに関係があるのかもしれない。科学、医学を志す若者も、是非、さまざまなジャンルの読書を楽しむことを期待する。図書館の雰囲気はその独特の静寂とともに知の大切さを伝えてくる。欧米の有名大学の図書館はほぼ年中夜中近くまで使用出来る。本学の図書館は紫式部のゆかりの廬山寺が北隣に位置する知の発するところである。

図書館の開館時間が長くなることを切望する次第である。

さて、私が医療の分野で個人的に目標の一つとしてきたものは「be international」である。自らの診療や研究のレベルが世界に通用するものかどうかを意識することである。そして、二つ目の目標が「優れた臨床医」。言い換えれば、「患者に最善の治療を提供できる医師でありたい。」ということである。「教育」「臨床」「研究」、この三つは並列して、同じ重みをもって論じられることが多い。しかしながら、「教育」とは確立した治療あるいは臨床に必要な技術・知識、医師としての心構えを教えることであり、「研究」は治らない病気を治るようになるために行うもの、言い換えれば「未来の治療」を模索することである。「臨床」を核として「教育」と「研究」があるとするのが、私の考えである。

近年の基礎医学の発展はめざましく、次々と新しい知見や研究技術が示される。そのような中で、臨床を行ないつつ最先端の知識をもって医学研究を進めることは至難とも言える。しかし、臨床に立脚した研究こそ、我々臨床医が成し得るものであり、目標とするものである。昨今注目されているリバーシ・トランレイショナル研究である。繰り返しになるが、研究は現在の医療では治療に難渋するとされる患者を救済することを第一義として行うものである。これからも、このような考えのもとに、多くの優れた新規治療方法が開発されることを望む次第である。

視点を国際交流に移してみよう。何故、国際的な交流が必要なのであろうか？何故、他の施設との交流が必要なのであろうか？この答えは比較的簡単である。自分が持つ自分の常識が通用するかどうか、自分が持つ医療技術が通用するかどうか、自分の考え方が通用するかどうか、これらは基準となるレファレンスがあって初めて評価できるものである。自分の持っている常識は、他施設では非常識ということもままあり得る。最良の医学・医療を目指すのであれば、国内外におけるアップデートな情報とその科学的事実を冷静にかつ的確に把握していくことが大切になってくる。夢とロマンを持った若者が、常に自分の内と外に目を向けながら大きく成長することを願う次第である。

※過去の教員コラムは、[こちら](#)です。

【2】 --- 平成 30 年度第 2 回企画展示 <ほそちいちゃい本>展を開催中

- 期間：平成 30 年 11 月 10 日（土）まで
- 場所：附属図書館 1 階 特設展示コーナー
- 展示資料：[こちら](#)
- チラシ：[こちら](#)

本の中に挟まれて埋もれがちな細い図書や手のひらサイズの資料を展示しています。「気道確保・麻酔『超』入門」「『さよなら』を大切な人にいうんだ」など、薄いからこそ特化した内容や、「ICU ポケット」「実習マナー」など簡潔にまとまっているものなどなど。今まで目に留められていなかった図書たちに出会えるチャンス！かさばらないから、貸出もお気軽です！

【3】 --- プレゼンテーション・スキルアップ講座 ～一歩進んだプレゼンテーションを学ぶ～

■日時：2018年11月21日（水）18:00-19:00 講習会
19:10-19:40 トレーニング

■場所：附属図書館2階 AV ルーム

■講師：小林隼氏

（ProQuest 日本支社 トレーニング&コンサルティングパートナー）

■対象：本学教職員、大学院生、学部学生ほか

■申込不要

■ポスター：[こちら](#)

2016年に好評を博したプレゼンテーション・スキルアップ講座を再び！イギリスで教育修士号を取得した小林氏を招いて講習会を開催します。

なお、休憩を挟んでプレゼンテーションのトレーニング方法も御紹介いただきます。トレーニングだけの参加も OK です。

【4】 --- 【同日開催】 ProQuest 講習会 ～ProQuest を使ってみよう～

■日時：2018年11月21日（水）16:00-17:00

■場所：附属図書館1階 情報検索室

■講師：小林隼氏

（ProQuest 日本支社 トレーニング&コンサルティングパートナー）

■対象：本学教職員、大学院生、学部学生ほか

■要申込：[メール](#)又は電話(内線：9400)で、所属とお名前を御連絡ください。

※件名に「ProQuest 参加申込」と御記入ください。

PubMed などの検索結果から何気なく使っている [ProQuest](#) データベース。3,000 タイトル以上の雑誌が収録されているのは御存知ですか？今回の講習では、実際にアクセスしながら ProQuest でできることを学びます。

※端末を使用します。準備の都合上、事前申込をお願いいたします。

【5】 Mecke でめっけて！③異なる版次があります

.....

図書館ホームページにある検索窓 [Mecke \(メッケ\)](#) は「ディスカバリ・サービス」＝資料と論文の発見をお手伝いします。

「細胞の分子生物学」（「Molecular Biology of the Cell」）「ハリソン内科学」（「Harrison's Internal Medicine」）のように改版を重ねる教科書が、原著と日本語訳それぞれ検索結果一覧にをまとめられています。「異なる版が○件あります」をクリックすると最新版から過去の版まで一目で見つけることができます。

[Book Review]

.....

マイケル・ウォルフ著 『炎と怒り—トランプ政権の内幕』（早川書房 2018）

本書は、トランプ大統領の就任から約1年半という期間における、ホワイトハウスにおける筆者の取材に基づいて執筆されている。

最初、大統領当選が確定的になり、予想もしない結論に「幽霊を見たような顔」あるいは「恐怖にかられた表情」になるトランプが描かれる。「大統領選挙で接戦を演じた敗北」を選挙後に自分の商売に利用して利益を得ようと考えていた男が大統領になってしまったのだ。この本に描かれるその後のホワイトハウスでの日常も無茶苦茶である。これで国家が保てるのかと不安を通り越して戦慄を感じる。他国のこととはいえ、アメリカに依存せざるを得ない日本にとっては、深刻な気持ちにさせられる一冊であった。

（京都府立図書館「K-Libnet」で貸出が可能です）（T.S.）

KPUM Library Booklog : <http://booklog.jp/users/kpumlib>

この本のページ : <https://booklog.jp/item/1/4152097566>

※「K-Libnet」は4月から始まった京都府内公共図書館・読書施設等との相互貸借

サービスです。詳しくは[こちら](#)をどうぞ。

.....
図書館メール News 第 373 号 2018.10.26 発行 (隔週金曜日発行)

編集・発行 : 京都府立医科大学附属図書館

library@koto.kpu-m.ac.jp

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library> /

.....
(図書館メール News のバックナンバーはこちらから↓)

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/webservice/mailnews.html>